
ヘヴンズ・ゲート

電波中毒患者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヘウンズ・ゲート

【Nコード】

N5539BA

【作者名】

電波中毒患者

【あらすじ】

「入学早々酷かったな」晴嵐高校新入生、天海は苦笑いしながら言った。

晴嵐高校とは、霊術を悪用する組織を霊術を使って粉碎するべく作られた、対霊術師育成機関である。しかし。「友人が入った」という理由で入学した天海和弥にはそんなこと関係ない。何も知らず入った彼はこの状況を飲み込めず、毎日霊術師討滅依頼の山！一体彼はどの学園生活をどのように乗り越えていくのか！？

「彼は学園至で最高のスキルを持った生徒です！……彼じゃなくて彼のゴーストがです！」

晴嵐高校入学式！…多分

「霊というものは空想の産物であり、実際にあるはずなど無い。」

と、考えるひとは多数いるかもしれない。いや、いるだろう。俺もついこの前まではそう思っていた。いや、今でも思っているのだろうか……

「はあ、はあ、はあ……」

まだ肌寒さが残る春のある日の朝、俺 あまみかずや 天海和弥はアスファルトで整備された道路をひたすらに走っていた。

「くそ、なんでこんな……！」

今日はとある学校の入学式。そして、俺はその新入生である。

「今…何時だ…？」

…さて、勘の鋭い人ならもう分かるかもしれないが、分からない人のために念のため言っておこう。

「クソツ！あと2分じゃねえか！」

俺は今登校中であり、入学式まであと2分。

要するに、遅刻である。

「遅いぞ！…なんだ、その格好は」

やつのことのでついた校門の前で待っていたのは、いかにも生徒指導をやっているような教師である。

「ちよつと、事故を起こしましてですな…」

「雨が降っているわけでもないのに全身水浸しになる事故とは何か聞かせてもらおうか」

実を言うと、登校途中に足を滑らせて川に真つ逆さまに落ちた訳なのだが、そんな恥ずかしいこと言いたくもない。まあもつとも、そのおかげで時間ギリギリ間に合ったのだが。

「まあいい、早く4号棟に行け」

ずぶ濡れの姿に呆れたのか、俺をまくしたてるように言った。

(これは、新入早々目をつけられたかもしれないな……)

自分で言った言葉に自分で笑いながら、揚々と4号棟へ向かって行った。

後に本当に目をつけられるということも知らずに……

「ん？4号棟って、どこだ？」

四苦八苦しながらも色々なところを回り、やっと4号棟へたどり着いた。

ていうか、この学校12号棟まであるのかよ。

「さて、そろそろ入学式も終わる頃かな…」

と言いつつ中を見ると、ステージの上に立っている一人の女性が目に映った。遠くからでよく見えないが、どうやら本を片手に何か言っている。

「ん？何やってんだ？何か言ってる割には生徒の方向いてないs…！？」

俺の言葉が言い終わるや否や、彼女の周りから青白い光の帯が現れた。それが束になって固まるにつれ、光量も大きくなっていく。

「何だあれ……魔法…か？」

すると、随分と大きくなった光の帯が、突然動き出した俺の方向に。

「は！？何！？」

光弾はどんどんと速くなり、入り口で狼狽している俺に躊躇なく襲い掛かった。

ドシャアアアアアという莫大な効果音と共に、5号棟の入り口まで俺は吹っ飛ばされた。

「ん？霊結界張つてあるから攻撃霊術は吸収されるはずなのに。扉が開いてたのかしら？」

遠のいていく意識の中、そんな暢気な声が聞こえた気がした。

晴嵐高校入学式！…多分（後書き）

ご閲覧ありがとうございます！

初めて執筆させていたいただきましたが、いかがでしたでしょうか？…
といっても、まだ最初の部分だけです！><

この話で強引に霊術を引っ張り出しましたが、決してネタがないわけではありません

これからコメディーの要素を付け加えて面白くしていきたいと思えます！

あ、もちろん、シリアスなところも出しますよ

これからよろしく願います！

……3話位で終わりそうな気がする

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5539ba/>

ヘヴンズ・ゲート

2012年1月15日02時52分発行